# \*よどじん\*

なになに…

来週5日は11時から16時まで外出します。 来月8日は14時まで外出します…。 相変わらず、じっとしてへんやっちゃなぁ。

今月のよどじんは、

## 西中島3丁目にある 「まちの小さな写真館」

# 新川治朗さん(54才)



西中島3丁目、商業ビルが立ち並ぶ一 画にあるレンガ模様のお店。昭和48年に 父親がはじめた小さな写真館に、今から 約35年前、お手伝いという形で治朗さん が入った。しかし、約1.5坪という限られた スペースに父親と2人。些細なことでケン カが絶えず 「こんな狭いところにおったら 息苦しくて死んでまうわ!]と店番の仕事 はあっさりとお父さんに託してしまう。

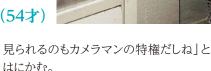
外回りの仕事に転向した治朗さん、そ こからは雑誌の撮影や卒業アルバムの 制作と、カメラマンの世界にどんどんのめ りこんでいく。早朝に家を出て夜まで帰ら ない日もざらで、スケジュール帳には予定 がびっしり。近所の方に『あんたいつも店 におらんなぁ』と笑われた。

### 手がけた雑誌は50誌

長年、雑誌の撮影を続け、手がけた雑 誌は50誌にのぼる。ただ、そのほとんどが 車関係のものだった。というのも、治朗さ んは高校卒業後にバイク屋に勤務するほ どの乗り物好き。「趣味の世界で仕事が できるのは本当に楽しいし、幸せ。普通な ら絶対に入れない場所からカーレースを



▲写真を手に取ると当時の光景が蘇る



### えっ、どっから撮るの?

現在は雑誌撮影の仕事から身を引き、 証明写真の撮影をメインにこなす。しか し、小さな店舗の撮影スペースはごく限ら れている。店の奥にスクリーンを降ろし、 お客さんがその前に腰かけると、治朗さ んはほぼ店の外から撮影することになる。 「お客さんは躊躇しますね。『どこで撮ん ねやろ…』って。でも狭いおかげで光がよ く回るから、明るい良い写真が撮れるんで すよ」と胸を張る。



▲空間をフル活用した撮影です

### 店に居ますからね!?

「今までが本当に楽しかったから、この 先も写真を撮り続けていきたい」と話す 治朗さん。時代とともにまちの写真館の 役割も薄れつつある。しかし、写真館の数 が減った事で、そのお客さんが治朗さん の店を訪れるようになった。「これまでは 外へ外へと飛び出してきたが、今は訪れ るお客さんや地域とのつながりに喜びを 感じています。『あんたいつも店におらん なぁ』ってあんまり言われんように、しっか りと腰を据えていきましょうかね」

息苦しくも感じた1.5坪の空間が、今では 治朗さんのかけがえのない場所となった。

# ち よ つ ト

写真のシンカフ



いかがでしたか? 今回の[よどじん]。 よどじんコーナーでは、静かに流れる人々の 暮らし、何気ない風景、そして人の心に光を あて、みなさまの元にお届けします。